



アメリカ大使館 報道室

TEL.3224-5264 / 5265 / FAX. 3586-3282

—参考資料— 以下は非公式訳であり、正文は英文です。

(本資料は、7月21日午前に配布されたものの訂正版です。)

アメリカ合衆国大統領演説
ウィリアム・ジェファーソン・クリントン
沖縄県平和祈念公園・平和の礎
2000年7月21日

稲嶺沖縄県知事ならびに沖縄県庁関係者の皆様、「平和の礎」にお名前が刻まれた方々のご遺族の皆様、退役軍人の皆様、そして御来場の皆様、ありがとうございます。はじめに、今日は過去のことと将来のことをお話するためにここに来たわけですから、今一度町華さんに拍手をお願いしたいと思います。彼女は見事に役目を果たし、沖縄の学生を立派に代表しました。

私は、この40年間で最初に沖縄を訪れたアメリカ合衆国大統領であることを光栄に思っております。今週、G8の各国首脳が集い、未来について多くのことを語り合うことになっています。しかし、私は、過去について静かに、そして最も力強く語るこの場所をまず訪れて、この沖縄で命を落とされた人々を追悼し、その人々のいまわの際の願い、つまり自らが被った体験や犠牲を将来の世代が強られるようなことが二度とないようにとの願いに敬意を払いたいと思いました。

沖縄戦は80日以上にわたりました。10万人を越す、もしくはほぼ10万人の日本の兵士が戦死しました。1万人以上のアメリカの兵士が命を落としました。しかし、最大の悲劇は沖縄県民自身を襲ったのです。この島の民間人の3分の1の人が帰らぬ存在となってしまったのです。生き残った人々の9割は家を失いました。こうした人々は皆、今の私たちのように、家族もいれば友人もいて、愛や希望、そして夢を抱き、もっと良い世の中であったならば、順調な人生を送れたはずの人々でした。本日は特にご列席の沖縄のご遺族の方々に、「平和の礎」で私にお会い頂いたことを感謝申し上げます。

沖縄戦は最も悲惨な戦闘でした。その戦闘を悼んで建立されたこの記念碑は最も強い人類愛を示しています。「平和の礎」のすばらしさはすべての人の悲しみに応えているところです。大抵の記念碑は戦争で亡くなった一方の側の人々だけを追悼するものですが、「平和の礎」は戦った双方の人々、そしていずれの側にもつかなかった人々をも悼むものです。したがって、「平和の礎」は単に一つの戦争の慰霊

碑という以上に、あらゆる戦争の慰霊碑であり、そのような破壊が二度と人類に降りかかることを防ぐための私たちの共通の責任を想起させてくれているのです。

過去 50 年間、日米両国は、この礎の心を持って、そうした責任を満たすべく協力してきました。日米同盟関係の強さは、20 世紀の偉大な物語です。今日、アジアが概ね平和であるのは、日米同盟関係がこの地域のすべての人々に、平和が守られ維持されていくという信頼感を与えてきたからです。同盟関係というのは、まさにそのために存在するのであり、だからこそ、日米同盟関係は維持されていかなければならないのです。

勿論、沖縄は、この同盟関係の維持のために、特に不可欠な役割を担ってきました。私は、沖縄の人々が、自ら進んでこの役割 — 日本の国土の 1 パーセントに満たない面積でありながら在日米軍の 50%以上を受け入れるという役割 — を果たしてこられたわけではないということを分かっています。私は、ここで先程稲嶺知事のお話を伺いました。また、「平和の礎」を歩きながら知事と話し合う機会もありました。私は、沖縄の皆様のご懸念を理解するように努力してきました。私たちは 5 年前に、ここ沖縄の米軍基地統合プロセスを始めました。私たちは 27 項目の具体的措置に合意しました。既に、その半分以上が達成されています。

知事ならびに沖縄の皆様、きょう、私は次のことを再確認します。私たちは、すべての約束を果たします。私たちは、沖縄における私たちの足跡を減らすために、引き続きできるだけだけの努力を致します。私たちは良き隣人である責任を重く受け止めており、その責任が果たされないことはアメリカ合衆国にとって容認できないことです。

またその一方で、平和と繁栄の恩恵をこの沖縄にももたらすため、私たちが協力してできることはまだまだあります。私は、世界の人々が、沖縄を過去の戦場としてではなく、「万国津梁」すなわち、国々の間に懸かる橋、として見て欲しいと思います。まさに今週、首脳たちが集まる会議場の名前が適切に表しているとおります。

5 世紀前、尚王朝の黄金時代、この島は、アジアを流れるすべての貿易の交差点として活躍していました。そして、21 世紀の情報化時代において、沖縄は、再び交差点そして日本にとって世界に向けた門戸になることができます。この 1 年間に、20 社以上の日本の IT 企業の後を追いつき、アメリカの『フォーチュン』誌上位 500 社のうち 3 社が、この島にそれぞれ事務所を開設しました。

ここに報道関係者の方々もいらしますので、今夜この素晴らしい場所をテレビで見られるアメリカ、ヨーロッパ、そして全世界の人々に次のように伝えたいと思います。沖縄は良いところです。ここに来て、ぜひ沖縄の人々が将来を築くのに協力をしていただきたい、と。

私は、琉球大学創立 50 周年にあたるこの年に、沖縄を訪問できたことも特に嬉しく思います。琉球大学創立にあたりアメリカが主要な役割を果たしたことを誇りに思っています。さらに、ガリオア・フルブライト・プログラムを通して、非常に多くの沖縄の若者達がアメリカで勉強されたことも同様に、誇りに思います。この素晴らしい両国間の伝統にのっとり、本日、私は、以下のとおり、発表致します。日米両国は、沖縄の若い大学院生をハワイの権威あるイースト・ウエスト・センターに派遣するため、新しい奨学金プログラムを設立します。このプログラムを、私の良き友人であった故小淵恵三前総理に捧げます。このプログラムが、小淵前総理が一生懸命に努力された日米両国間の友好と理解の促進を更に進める一助となることを心から願っています。

今週、沖縄に集う森総理をはじめとする G 8 の首脳達は、最も富める国と最も貧しい国の格差、一国の中での最も富める地域と最も貧しい地域の格差を縮めるための方途を探求します。この美しい「平和の礎」に込められた希望と和解のメッセージ、そしてアメリカと日本が築いてきた友情は、すべての人の生まれながらの権利であるはずの喜びや可能性を依然として非常に多くの人々に拒否している、新世紀のあらゆる問題を克服する「橋」を築くことができるという希望を与えてくれます。

1879 年、最後の琉球王である尚泰王は、首里城を永久に後にしました。王として最後に詠んだ詩には未来への希望が托されています。今日、尚泰王の言葉は世代を超えて、私たちに語りかけています。「イクサ ユン スマチ、ミルク ユン ヤガテ」。「戦の時は終わりゆく。平和は遠からじ。あきらめる事なかれ。命こそが宝なり」。願わくば、尚泰王の詩が、今後、何ヶ月、何ヶ年に渡って私たちの友情と努力の道案内をし続けてくれることを。

知事のお言葉、そしてこちらでのリーダーシップに感謝いたします。結局のところ、尚泰王の詩を私たちの時代に実現させられれば、この「平和の礎」に名を刻まれた方々にとって私たちのなし得る最良の追悼となりましょう。

ご静聴ありがとうございました。

* * *